

校内放送研究

第51回**NHK**杯全国高校放送コンテスト要項
P D F 版



No**133** 2004.3

全国放送教育研究会連盟 **NHK**

全国放送教育研究会連盟 へのホームページ

<http://www.nhkk.or.jp/zenporen/>

第 5 1 回 **NHK** 杯 全 国 高 校 放 送 コ ン テ ス ト な ら び に 校 内 放 送 活 動 研 究 集 会 開 催 要 項

1. 目 的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望をもつ人間としての成長をめざし、校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づけ、情報発信としての放送活動の発展をはかる。

2. ね ら い

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にすること、心を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 情報発信者としての自覚を高め、あわせて創造性を育てる。
- (3) 社会との関わりに目を向け、放送の果たす役割を学ぶ。
- (4) 人間尊重の心を培い、国際理解を深める放送の働きを確かめる。
- (5) 学園生活の中にうらおいを育て、心のふれあいの場をつくる。

3. 研究主題(統一テーマ)

「私たち高校生と放送」

高校生の連帯、先生方とのきずな、地域や社会への結びつきを、日常生活の中で考え、主体的に放送活動に展開すること。

4. 主 催

全国放送教育研究会連盟・**NHK**

5. 共 催

全国高等学校文化連盟・(財)日本放送教育協会

6. 後 援

文部科学省・全国高等学校長協会・日本私立中学高等学校連合会・NHK サービスセンター・日本放送作家協会

7. コンテストの各部門

- | | |
|--------------|--------------|
| (1)アナウンス | (2)朗読 |
| (3)ラジオドキュメント | (4)テレビドキュメント |
| (5)創作ラジオドラマ | (6)創作テレビドラマ |

8. 審 査 員

全国放送教育研究会連盟の推薦する者と NHK 職員とが審査にあたる。

9. 表 彰

部門	アナウンス	朗読	ドキュメント		創作ドラマ	
			ラジオ	テレビ	ラジオ	テレビ
優 勝	1	1	1	1	1	1
準 優 勝	1	1	1	1	1	1
優 秀	2	2	2	2	1	1
優 良	6	6	6	6	2	2
入 選	50	50	10	10	5	5
制作奨励賞			20	20	10	10

各部門の優勝校には、NHK 杯・NHK 会長賞状

文部科学大臣賞状

準優勝校には、NHK 会長賞状・トロフィー

優秀校には、全放連会長賞状・楯

優良校には、全国高校長協会・私立中高連合会賞状・楯

入選校には、全国高校放送コンテスト委員長賞状

メダル(アナウンス・朗読) 楯(各番組)

制作奨励校には、全国高校放送コンテスト委員長賞状が授与されます。

更に、ドラマ部門の各優勝校には放送作家協会より賞品が贈られます。

10. 校内放送活動研究集会

校内放送活動から学んだことや、校内放送のアイデアなどを、発表をとおして研究する。

11. 日 程

- | | | |
|----------|-----------------------------|------|
| 7月22日(木) | テレビドキュメント部門
ラジオ・テレビドラマ部門 | 準々決勝 |
| 7月23日(金) | アナウンス・朗読部門
ラジオドキュメント部門 | 準々決勝 |
| 7月24日(土) | 全部門 | 準決勝 |
| 7月25日(日) | 全部門 | 決勝 |

12. 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター

渋谷区代々木神園町3-1

全部門 準々決勝・準決勝

NHKホール 渋谷区神南2-2-1

全部門 決勝

千代田放送会館 千代田区紀尾井町1-1

番組制作講習会

第 5 1 回 **NHK** 杯 全 国 高 校 放 送 コ ン テ ス ト 参 加 規 定

1. 参加資格

- (1) 2004 年 7 月現在、以下の学校・専修学校・各種学校に在籍中の生徒及びその作品であること。
 - ・高等学校及び中等教育学校の後期課程
 - ・盲学校・聾学校及び養護学校の各高等部
 - ・高等専門学校（第 3 年次までの生徒）
 - ・専修学校及び各種学校（修業年限が高等学校と一致していること）
- (2) 各部門への参加は、各都道府県高等学校放送教育研究会(視聴覚教育研究会を含む)あるいは高等学校文化連盟の推薦による。
- (3) アナウンス部門・朗読部門は 1 名 1 部門とし、番組は 1 部門に 1 校 1 作品とする。
- (4) 番組制作の各部門は、高校生の創作に限る。
また、他のコンクールなどに参加した作品の参加は認めない。

2. エントリー〔各都道府県推薦数〕

ア ナ ウ ンス 部 門	6 名
朗 読 部 門	6 名
ラ ジ オ ド キ ュ メ ント 部 門	4 作品
テ レ ビ ド キ ュ メ ント 部 門	4 作品
創 作 ラ ジ オ ド ラ マ 部 門	2 作品
創 作 テ レ ビ ド ラ マ 部 門	2 作品

* ただし地方大会の参加校数が 100 校を越える都道府県は 1.5 倍まで、150 校を越える都道府県は 2.0 倍まで可とする。

* 各都道府県の推薦数は上記の限度内において有効に利用されたい。フルエントリーが望ましいが、特定の学校に推薦が偏らないように配慮すること。

3. 参 加 費

アナウンス部門 朗 読 部 門	各 1 名	4,000 円
ドキュメント部門 創 作 ド ラ マ 部 門	各 1 作品	6,000 円

4. 参加作品の著作権は主催団体に帰属する。

同じ作品または同一素材等を利用し、改作した類似作品を他の団体の主催するコンクール等に応募することとはできない。

5. 推薦締切

各都道府県の研究会からの推薦は、

2004 年 6 月 25 日(金)必着とする。

各都道府県からの推薦は、エントリー番号を使用する。エントリー番号一覧は各都道府県事務局に配布する。

6. 原稿・台本・作品の提出締切

アナウンス部門・朗読部門の原稿(2部)および各番組の台本(1部)、作品(MD、VHSカセット)の各都道府県の研究会からの提出は、

2004 年 7 月 9 日(金)必着とする。

7. 送り先(問い合わせ先)

〒150-0047 東京都渋谷区神山町 1-2 第八共同ビル
(財)日本放送教育協会内 高校放送コンテスト事務局
Tel: 03-3481-1701 Fax: 03-5454-1410
E-Mail: ncon@nhkk.or.jp

各都道府県の研究会では、申し込み書等を一括してコンテスト事務局に送付する。なお参加費は郵便振込とする。

学校あるいは個人の直接の申し込み、及び作品の直送は受付けない。

8. JASRACの著作権料について

著作権料については、各都道府県ごとに取りまとめ指定口座に納入する。

第 5 1 回 **NHK** 杯 全 国 高 校 放 送 コ ン テ ス ト 制 作 規 定

1. アナウンス部門

自校のニュースや解説など校内放送に使用する内容とし、原稿は自作したものに限る。

(1) 番号、氏名を含め 1 分 10 秒以上 1 分 30 秒以内でアナウンスする。

(2) 原稿は様式 1 に従い、制限時間内でアナウンスできる字数とする。

原稿は 2 部、各都道府県事務局が一括してコンテスト事務局に送付する。(7月9日(金)必着)

(3) 準決勝では、自分の原稿の他に、課題としてプログラム号にのる**指定原稿の中から 1 つを選び**、アナウンスする。

(4) 決勝では、自分の原稿の他に、**当日提示の課題を加えて**アナウンスする。

2. 朗読部門

次の 5 作品から 1 編を選び、朗読する。作品の脚色は認めない。

朗読指定作品

- | | |
|-------------|---------------|
| 1)「路傍の石」 | 山本 有三 著(新潮文庫) |
| 2)「明るい旅情」 | 池澤 夏樹 著(新潮文庫) |
| 3)「実りを待つ季節」 | 光野 桃 著(新潮文庫) |
| 4)「幸福な王子」 | ワイルド 著 |
| | 西村 孝次 訳(新潮文庫) |
| 5)「奥の細道」 | 松尾 芭蕉 著 |

注意：()内の出版社に限る。

- 1)については p451 までの『新編 路傍の石』のみとする。
- 4)については『改版 幸福な王子』を指定し、収録作品 9 編のどれを選んででもかまわない。
- 5)は現代語訳不可、出典は問わない。

(1) 番号・氏名・作者名・作品名を含め 1 分 30 秒以上 2 分以内で朗読する。

(2) 原稿は様式 1 に従い、制限時間内で朗読できる字数とする。

原稿は 2 部、各都道府県事務局が一括してコンテスト事務局に送付する。(7月9日(金)必着)

(3) 準決勝では、自分の原稿の他にプログラム号にのる**指定原稿の課題を加えて**朗読する。

(4) 決勝では、自分の原稿の他に、**当日提示の課題を加えて**朗読する。

3. ドキュメント部門

高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を

求め、ラジオ・テレビの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切に、独創的な作品であること。

3 - 1) ラジオドキュメント部門

(1) 6 分 30 秒以上 7 分以内でまとめ、MD に録音する。(LP モードは不可)

・ドルビー等のノイズリダクション方式を使用してはいけない。

・作品の最後には「制作は○○高等学校放送部(放送委員会等)でした。」というクレジットコールを入れる。

(2) MD とケースには必ず様式 2 により、必要事項を記入したものを貼付する。

(3) 様式 4 に従った台本 1 部と作品は、**都道府県事務局が一括してコンテスト事務局へ送付する。(7月9日(金)必着)**

(4) 準決勝進出校は、様式 5 に従い 100 字以内のコメントを書き、準決勝受付時に提出し、作品発表前にステージで読むこと。

注意・審査は会場の機材を使用して行なう。

・計時は最初の音から、クレジットコールの終り(……でした)までとする。

3 - 2) テレビドキュメント部門

(1) 7 分 30 秒以上 8 分以内でまとめる。

・作品は VHS(標準モード)で音声は Hi-Fi のみ使用する。

・作品の最後には「制作：○○高等学校放送部(放送委員会等)」というクレジットタイトルを入れる。

・作品の前後に 10 秒ずつ様式 3 のテストパターンを録画する。この際、テストパターンを改変してはいけない。

・テレビ放送番組等の再録を主体としたものは認めない。

(2) カセットとケースには、必ず様式 2 により、必要事項を記入したものを貼付する。

(3) 様式 4 に従った台本 1 部と作品は、**都道府県事務局が一括してコンテスト事務局へ送付する。(7月9日(金)必着)**

注意・審査は会場の機材を使用して行なう。

・計時は初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまでとする。

4．創作ドラマ部門

高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、ラジオ・テレビの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切に、独創的な作品であること。

4 - 1) 創作ラジオドラマ部門

- (1) 8分以内でまとめ、MDに録音する。
(LPモードは不可)
 - ・脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。文芸作品などからの脚色や改作は認めない。
 - ・出演者は自校生徒に限る。
 - ・ドルビー等のノイズリダクション方式を使用してはいけない。
 - ・作品の最後には「制作は〇〇高等学校放送部(放送委員会等)でした。」というクレジットコールを入れる。
- (2) MDとケースには必ず様式2により必要事項を記入したものを貼付する。
- (3) 様式4に従った台本1部と作品は、都道府県事務局が一括してコンテスト事務局へ送付する。(7月9日(金)必着)

注意・審査は会場の機材を使用して行なう。

- ・計時は最初の音から、クレジットコールの終わり(……でした)までとする。

4 - 2) 創作テレビドラマ部門

- (1) 8分以内でまとめる。
 - ・脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。文芸作品などからの脚色や改作は認めない。
 - ・出演者は自校生徒に限る。
 - ・作品はVHS(標準モード)で音声はHi-Fiのみ使用する。
 - ・作品の最後に「制作：〇〇高等学校放送部(放送委員会等)」というクレジットタイトルを入れる。
 - ・作品の前後に10秒ずつ様式3のテストパターンを録画する。この際、テストパターンを改変してはいけない。
- (2) カセットとケースには必ず様式2により必要事項を記入したものを貼付する。
- (3) 様式4に従った台本1部と作品は、都道府県事務局が一括してコンテスト事務局へ送付する。(7月9日(金)必着)

注意・審査は会場の機材を使用して行なう。

- ・計時は初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまでとする。

制作に当たっての注意

1. アナウンス部門・朗読部門の原稿(各2部)及びドキュメント部門・創作ドラマ部門の台本(各1部)は、著作権の処理のチェックなどを行ないますので、事前に提出していただきます。

提出後のタイトル・原稿などの改編は認めません。

各都道府県で一括してコンテスト事務局へ送付してください。

7月9日(金)必着

2. ドキュメント部門及び創作ドラマ部門の作品は、提出前に録音レベルのチェックを行ってください。大会当日音声上のトラブルが毎年発生しています。なお、トラブルに対処するため、大会当日バックアップのテープなどを持参するようにしてください。
3. 参加作品のNHKでの放送について
参加作品をNHKの地域番組や夏のテレビクラブ・ラジオクラブなどで放送することがあります。そのため、制作にあたっては、番組に登場する著作物や出演者、協力して頂いた方々などに放送のための承諾を得ておくようにしてください。放送許諾が得られないときには放送できないことがあります。

第 5 1 回 **NHK** 杯 全 国 高 校 放 送 コ ン テ ス ト 審 査 員 委 嘱 な ら び に 審 査 規 定

1. アナウンス部門・朗読部門 準々決勝審査

- (1) 各部門とも、3 会場に分け、審査員は都道府県研究会の推薦する者とコンテスト委員会の推薦する者をあわせて、それぞれ 5 名とする。
- (2) 各部門とも 3 会場より各 20 名、計 60 名を準決勝出場者として推薦する。

2. アナウンス部門・朗読部門 準決勝審査

- (1) 前項の準々決勝に準じた審査員の他、NHK アナウンス担当職員 1 名に審査員を委嘱する。
- (2) 各部門とも準決勝出場者 60 名から、10 名を決勝に推薦する。

3. ドキュメント部門 準々決勝審査

- (1) ラジオ・テレビの各部門とも、4 会場に分け、審査員は都道府県研究会の推薦する者とコンテスト委員会の推薦する者をあわせて、それぞれ 5 名とする。
- (2) 各部門とも、4 会場よりそれぞれ上位 10 作品を決め、計 40 作品を準決勝に推薦する。

4. ドキュメント部門 準決勝審査

- (1) 前項の準々決勝に準じた審査員の他、NHK 番組制作担当職員 1 名に審査員を委嘱する。
- (2) 各部門とも 40 作品中それぞれ上位 4 作品を決め、決勝に推薦する。

5. 創作ドラマ部門 準々決勝審査規定

- (1) ラジオ・テレビの各部門とも、2 会場に分け、審査員は都道府県研究会の推薦する者とコンテスト委員会の推薦する者をあわせて、それぞれ 5 名とする。
- (2) 各部門とも、2 会場よりそれぞれ上位 10 作品を決め、計 20 作品を準決勝に推薦する。

6. 創作ドラマ部門 準決勝審査

- (1) 前項の準々決勝に準じた審査員の他、NHK 番組制作担当職員 1 名に審査員を委嘱する。
- (2) 各部門とも、20 作品中それぞれ上位 3 作品を決め、決勝に推薦する。

7. 決勝審査

- (1) 審査員は、主催者が委嘱する。
- (2) 決勝の順位は以下の通りとする

部門	アナウンス	朗読	ドキュメント		創作ドラマ	
			ラジオ	テレビ	ラジオ	テレビ
優 勝	1	1	1	1	1	1
準 優 勝	1	1	1	1	1	1
優 秀	2	2	2	2	1	1
優 良	6	6	6	6	2	2

8. 審査員の委嘱

審査員は、主催者が委嘱し、審査員の旅費・宿泊費は所属団体等の負担とする。

9. 順位の決定

- (1) 準々決勝
5 名の審査員の最高、最低をカットして 300 点満点とし、合計点の高い順に順位を決定する。
- (2) 準決勝
教育職の審査員の最高、最低をカットして 500 点満点とし、合計点の高い順に順位を決定する。
決勝においては準決勝の得点を、準決勝においては準々決勝の得点を参考にしない。

10. 規定違反

コンテストの規定に対して違反があった場合は、失格も含め減点の対象とする。例としては、他の著作物の盗用、不適切な表現、著作権処理の不備、時間規定違反などがあげられる。なお、重大な違反の存在が判明した場合には、大会後においても賞の取り消しをすることがある。

第 5 1 回 **NHK** 杯 全 国 高 校 放 送 コ ン テ ス ト 審 査 基 準

1. アナウンス部門

- (1) 自校ニュースや解説など、高校生活の中から生まれた若者の声としての内容が課題となっている。
- (2) 自校の校内放送に使用する内容でなければならない。
- (3) 審査の視点
 - a. 原稿
 - (ア)素材の選び方 (イ)文章表現 (ウ)内容
 - b. アナウンスの技術
 - (ア)マイクの使い方 (イ)発声 (ウ)発音
 - (エ)アクセント (オ)イントネーション
 - (カ)プロミネンス (キ)テンポ
 - (ク)ポーズのとり方 (ケ)内容把握
 - (コ)表現の仕方
- (4) 点数は 100 点法。おおむね a. の項を 30%、b. の項を 70%として採点する。

2. 朗読部門

- (1) 指定作品の中から 1 編を選び、自己の表現したい部分を抽出のうえ、規定時間内で読む。作品の脚色は認めない。
- (2) 審査の視点
 - a. 原稿
 - (ア)作品の選定 (イ)朗読部分の抽出の仕方
 - (ウ)内容
 - b. 朗読の技術
 - (ア)マイクの使い方 (イ)発声 (ウ)発音
 - (エ)アクセント (オ)イントネーション
 - (カ)プロミネンス (キ)テンポ
 - (ク)ポーズのとり方 (ケ)内容把握
 - (コ)表現の仕方
- (3) 点数は 100 点法。おおむね a. の項を 30%、b. の項を 70%として採点する。

3. ドキュメント部門

- (1) ラジオ・テレビのそれぞれについて、ドキュメントとして審査する。
- (2) 番組制作への取り組みは、「私たち高校生と放送」という統一テーマのねらいを基盤として、それぞれの学校がその実態や地域性を考えた適切な素材を求め、ラジオ・テレビの特性を活かして作品に表現する。

(3) 審査の視点

- a. テーマ
テーマを理解し、学校をとりまく素材の中から適切なものを求め、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。
- b. 制作技術
 - (ア)制作の手法 (イ)取材の方法や努力
 - (ウ)企画構成 (エ)演出・編集
 - (オ)技術（録音・録画の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽や効果音の使い方など）
- (4) 点数は 100 点法。おおむね a. の項を 50%、b. の項を 50%として採点する。

4. 創作ドラマ部門

- (1) ラジオ・テレビのそれぞれについて、創作ドラマとして審査する。
- (2) 原作、脚本、演出、出演などすべて高校生自身による創作作品であること。
- (3) 審査の視点
テーマと制作技術については「ドキュメント部門」に準ずるが、テーマの設定や演出、演技など、「ドラマ部門」の特性に留意したものであること。
- (4) 点数は 100 点法。おおむね テーマを 50%、制作技術を 50%として採点する。

第 5 1 回 **NHK** 杯 全 国 高 校 放 送 コ ン テ ス ト 様 式 規 定

この様式はコンテストを円滑に運営するために設けました。下記の様式と相違した時は、失格も含め減点の対象になります。

様式 1 アナウンス部門・朗読部門

原稿（2部提出）

14ページ・15ページの原稿用紙（様式 1 - 1、様式 1 - 2）を使用し、仕上がり A 5 版で提出する。

様式 2 番組部門のラベルについて

ドキュメント部門、創作ドラマ部門とも作品には、都道府県の事務局に配布するラベルに16ページの記入例を参考にして、作品（MD、VHSカセット）とケースにそれぞれを貼り付ける。

また、作品のケースには、各都道府県の事務局に配布するエントリー番号のシールを別に貼り付ける。

様式 3 テストパターン

テレビドキュメント部門と創作テレビドラマ部門の作品の前後に使用するテストパターンは、16ページのテストパターンを使用する。

なお、50回大会報告号（CD-ROMにて配布したもの）に収録されているものを利用してよい。

様式 4 ドキュメント部門・創作ドラマ部門

台本（1部提出）

17ページから22ページの様式 4 - 1 から 4 - 7 の原稿用紙を使用し、また様式 4 - 6 は21ページ、様式 4 - 8 は、9・10・11ページの記入例を参考にして仕上がり A 5 版で提出する。

様式 4 - 1 表紙

プログラムには、タイトルは
15文字しか入りません。

様式 4 - 2 制作意図

200字以内

様式 4 - 3 あらすじ（創作ドラマ部門のみ）

400字以内

様式 4 - 4 台本（見本）

見本として掲載しましたが、
これ以外の様式でも構いません。

様式 4 - 5 制作者一覧表

（創作ドラマ部門はキャスト表も付けること）

様式 4 - 6 使用著作物一覧表

作品に使用した著作物（音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフト及びデータ・TV番組など）の一覧を記入してください。

これらは、著作権処理が不要の物であっても必ず記載してください。

様式 4 - 7 レコード会社の音源使用許諾申請書

および回答書

（著作権隣接権がレコード会社にある音楽を使用した場合）

様式 4 - 8 JASRACの利用明細書

（JASRAC管理の音楽を使用した場合）

4 - 7、4 - 8に該当しない著作物を利用する際には、必要な処理を必ず事前に行い、許諾を示す書類を台本末尾に添付してください。

著作物の使用について

著作物を使用する際に、使用の許諾を得た物については、必ず書類を添付してください。これらの書類は、写し（コピー）で構いません。A 5 版以上になっているものは、折りたたむなどして仕上がりサイズが A 5 版になるように工夫して台本末尾に添付してください。

なお、JASRACが管理している音楽の著作権料は、コンテスト事務局が、一括して処理するために著作権料を預かっていますが、あくまでも著作権料のみしか扱えません。

著作権料の他にもレコード会社など著作権隣接権を所有しているところに使用許諾を受ける（使用料の支払い）など必要な処理を行ってから使用してください。

様式 5 ラジオドキュメント部門番組紹介コメント

原稿用紙（提出用）

ラジオドキュメント部門で準決勝に進出した学校は、大会準々決勝受付で配布する原稿用紙にエントリーNo、学校名、作品名と100字以内のコメントを書いて準決勝受付時に提出してください。

このコメントは、準決勝の発表時に代表者が会場で読み上げるものです。

第 5 1 回 **NHK** 杯 全国 高校 放送 コンテスト 変更点とお知らせ

本年度にかぎり、会場の都合により4日間で実施することになります。エントリーした部門の会場日時に気をつけてください。また一昨年より、準々決勝から準決勝に進出する際に、エントリー番号（出演順）を組み替えていますので、会場や発表順などにご留意ください。

本年度は、アナウンス部門・朗読部門の原稿（2部）と、番組部門の台本（1部）および作品（1本）は、すべて当日ではなく事前に各県の事務局からコンテスト事務局に送付して下さい。（7月9日必着）

なお原稿および作品は、提出後の変更・交換は認めません。

ラジオドキュメント部門、創作ラジオドラマ部門において、メディアをカセットテープからMDに変更いたします。作品は、事前に提出することになりますが、再生は会場にある機材を利用するため会場で再生トラブルなども予想されます。バックアップとしてMDやカセットテープなどにコピーした作品を用意しておいて下さい。

昨年度から、全部門の原稿の様式をA4版またはA4半折りに統一しました。この冊子の「様式」に示されたものを拡大縮小せずにコピーして使して下さい。

審査規定の「規定違反」の適用を厳格に行います。

- ・事前に提出する原稿・台本や作品は、コンテスト制作規定および様式規定を守って提出してください。
- ・アナウンス・朗読部門においては、規定時間の厳守をお願いします。なお提出した原稿と違う物を読むことはできません。
- ・他の著作物を利用した場合は、十分に確認の上、必要な著作権の処理をお願いします。
- ・過去の作品との類似が指摘されるケースが多いので、番組の「独創性」についてご留意下さい。

様式4-8の音楽著作物使用に関するJASRAC関係の著作権処理に使用する明細書について

JASRACの録音利用明細書と映像ソフト録音利用明細書はJASRACのホームページからダウンロードして使用してください。アクセス方法などは以下の通りです。

JASRACのホームページ <http://www.jasrac.or.jp/> → 「利用者の方へ」 → 「申込書類のダウンロード」（又は「申込書類の郵送サービス」） → 「録音利用明細書（PDF:40KB）」又は「映像ソフト録音利用明細書（新譜用）（PDF:36KB）」

記入例は本要項の10,11ページを参考にしてください。

大会期間中の7月23日に千代田放送会館にて、番組制作講習会を実施する予定です。詳細については、後日連絡いたします。

報告号の掲載内容についての訂正とお詫び

校内放送研究誌第132号「報告号」において以下の誤りがありました。

ここに訂正し、あらためて関係者へご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫びいたします。

朗読部門準決勝 奈良県立香芝高等学校 辻井健吾様 追加

準決勝進出のところを、審査集計の手違いによりその機会を失わせてしまいました。

原因は最終確認における人的なミスに起因するものでした。このような事態は、コンテストの実施においてあってはならないことであり、関係者一同深く反省をしています。

辻井健吾様へは香芝高校を訪問し、謝罪と事故内容の詳細な報告並びに5位入賞の表彰を行うとともに、コンテストホームページにて入賞者の追加を既に行っております。

今後このようなことのないように細心の注意を払って当コンテストの運営に努め、有効な改善策を講じて参る所存です。

第 5 1 回 **NHK**杯 全国高校放送コンテスト 校内放送研究発表会案内

日頃の校内放送に関する研究発表会を以下の通りに設けます。質疑や発表のコメントの時間も設けますので一般の方の参加も多数お待ちしております。

記

1. 目 的

日常の校内放送活動の中から、問題解決の努力または技術的な創意工夫などを発表する機会を設け、各学校が持つ諸問題を共有して共に解決する場所と機会を提供することを目的とします。

2. 参加資格および参加校数

参加資格はコンテスト参加資格に準じます。

各県のコンテスト事務局から推薦された学校で参加校数は、各都道府県から 2 校までとします。

ただし地方大会の参加校数が100校を越える都道府県は 3 校まで、150校を越える都道府県は 4 校まで可とします。

3. 日時と会場

2004年7月24日(土) 9:00～17:00

国立オリンピック記念青少年総合センター 2会場予定

4. 発表規定

発表内容は、校内放送に関するものに限ります。

(校内放送の技術、機材、アナウンス・朗読の技術、番組の制作や編集の技術、部活動・委員会活動の運営方法など)

発表形式は、主にパソコンを使用したスクリーン 1 面によるプレゼンテーションとします。(なるべく、VTRに頼らない発表を心がけてください。)

会場には、主催者が以下の発表機器を用意します。

ノートパソコン(Windows XP) 1台

使用ソフト PowerPoint2003、Word2003、

Internet Explorer V6.0(インターネットには接続できません)

注 Internet Explorer、PowerPointおよびWordは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国の登録商標です。

その他にも

MD-CDラジカセ、VHSデッキ、マイク 2 本、電気スタンドを用意します。

使用機材に関して不明な点は、必ず事前に事務局に問い合わせをして下さい。

発表時間は機材調整を含め 8 分以内とし、発表者は機器操作を含め 3 人以内とします。また会場に資料を配付してもかまいません。(配布は発表時間内をお願いします。)

5. 申込み規定

参加費は、1 校、3000 円です。

申込み時に学校名と研究内容の要旨(200 字程度)のテキストデータと発表で使用するパソコンのデータを、1 校につき 1 枚のフロッピーディスクで提出してください。

パソコンのデータは、フロッピーディスク 1 枚に収まるデータ量でお願いします。

発表する学校は、参加申込書、参加費、フロッピーを各都道府県の事務局を通して、6 月 25 日(金)までに提出してください。

6. その他

発表は、研究テーマごとに行う予定です。発表順・会場は事務局からお知らせします。発表した学校には、『研究奨励』をお渡しします。

提出されたパソコンのデータ(要旨やプレゼンテーションのデータ)は、必要な形式に加工して研究要旨号や報告号に掲載する予定です。

発表は公開を前提としていますので、著作権処理が必要なもの(BGM、写真など)については、番組部門と同様の処理をお願いします。

第51回コンテスト日程一覧

月日 部門	7月21日(水)	7月22日(木)	7月23日(金)	7月24日(土)	7月25日(日)
総合受付	14:00~17:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 109号室	9:00~17:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 109号室	9:00~17:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 109号室	9:00~12:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 109号室	
アナウンス 部 門			準々決勝 9:00~12:30 柳光ヶ池ヶ-センター棟 A会場 310号室 B会場 311号室 C会場 416号室	準決勝 9:00~12:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 416号室	各 部 門 決 勝 NHKホール 9:00 ~ 16:00
朗 読 部 門			準々決勝 13:00~17:30 柳光ヶ池ヶ-センター棟 A会場 310号室 B会場 311号室 C会場 416号室	準決勝 13:00~17:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 416号室	
ラジオ・コメント 部 門			準々決勝 9:00~17:00 A会場 304号室 B会場 405号室 C会場 409号室 D会場 513号室	準決勝 9:00~16:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 402号室	
テレビ・コメント 部 門		準々決勝 9:00~17:00 A会場 304号室 B会場 405号室 C会場 409号室 D会場 513号室		準決勝 9:00~16:30 柳光ヶ池ヶ-センター棟 417号室	
創作 ラジオ・ドラマ 部門		準々決勝 9:00~17:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 A会場 309号室 B会場 416号室		準決勝 9:00~12:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 310号室	
創作 テレビ・ドラマ 部門		準々決勝 9:00~17:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 A会場 310号室 B会場 311号室		準決勝 13:00~16:30 柳光ヶ池ヶ-センター棟 310号室	
校内放送 研究発表会				9:00~17:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 405, 409号室	
番組制作 講習会			10:00~16:00 千代田放送会館		
コンテスト 担当者会議			18:00~20:00 柳光ヶ池ヶ-センター棟 513号室		

第51回コンテスト会場一覧

会 場	住 所 ・ 電 話	交 通
国 立 オ リ ン ピ ッ ク 記 念 青 少 年 総 合 セ ン タ ー	渋谷区代々木神園町3-1 03-3467-7201	小田急線参宮橋駅 徒歩7分 地下鉄代々木公園 徒歩10分
N H K 放 送 セ ン タ ー N H K ホ ー ル	渋谷区神南2-2-1 03-3465-1111	J R 渋谷駅 徒歩10分 地下鉄代々木公園 徒歩6分
千 代 田 放 送 会 館	千代田区紀尾井町1-1	地下鉄永田町駅 徒歩5分 地下鉄麹町駅 徒歩5分

レコード会社一覧(日本レコード協会)

2004.03.12 現在

販売会社名 郵便番号 住所	担当部署 電話番号	F A X 番号
コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社 107-8011 港区赤坂4-14-14	法務部 03-3584-8208	03-3582-9857
ビクターエンタテインメント株式会社 107-0061 港区北青山3-6-7 パラシオタワー	管理本部法務グループ 03-5467-5735	03-5467-6898
キングレコード株式会社 112-0013 文京区音羽1-2-3	法務部 03-3945-2356	03-3945-1717
株式会社テイチクエンタテインメント 150-8516 渋谷区神宮前6-27-8 京セラ原宿ビル 6 F	法務部 03-5778-1723	03-5778-1725
ユニバーサルミュージック株式会社 107-8583 港区赤坂8-5-30	法務部 03-6406-3066	03-6406-3166
東芝EMI株式会社 107-8510 港区赤坂2-2-17	ライセンシングオフィス 03-5512-1752	03-5512-1732
日本クラウン株式会社 107-8405 港区北青山2-7-26 フジビル28	制作宣伝管理本部 法務部 03-5772-4847	03-5772-4852
株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ 107-8584 港区南青山3-1-1 プラザ 246青山ビル 2F・3F	法務室 03-3746-2804	03-3746-1653
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 102-8353 千代田区六番町4-5 SME六番町ビル	契約部 03-3515-5631	03-3515-5166
株式会社ポニーキャニオン 105-8487 港区虎ノ門2-5-10	法務部 03-5521-8005	03-5521-8105
ワーナーエンターテインメント ジャパン株式会社 107-8639 港区北青山3-1-2	法務部 03-5412-3120	03-5412-3139
株式会社バップ 102-0081 千代田区四番町5-6 日本ビル 四番町別館4F	編成部ライツ業務課 03-3234-5712	03-3237-9388
株式会社BMGファンハウス 150-8350 渋谷区渋谷1-3-9	法務部 03-3797-9393	03-3797-1757
ジェネオン エンタテインメント株式会社 150-8506 渋谷区恵比寿南1-20-6	契約法務グループ 03-5721-1356	03-5721-9879
株式会社ビーグラムレコーズ 106-0032 港区六本木5-2-2 森本六本木ビル 6 F	03-5411-8420	03-5411-8422
エイベックス株式会社 107-8577 港区南青山3-1-30	契約部 03-5413-8503	03-5413-8803
株式会社プライエイド・レコーズ 150-0022 渋谷区恵比寿南2-14-6	管理部 03-3710-0510	03-5721-3255
株式会社トライエム 107-0062 港区南青山2-24-15 青山タワービル 6 F	管理部法務グループ 03-5772-4811	03-3403-2440
株式会社フォーライフミュージックエンタテイメント 150-0002 渋谷区渋谷2-12-19 東建インターナショナルビル 4F	制作編成本部管理部 03-5466-4113	03-5466-4153
株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ 153-8666 目黒区下目黒3-24-22	管理課 03-5773-0882	03-5773-0883
株式会社ジャニーズ・エンタテイメント 107-0052 港区赤坂7-10-20 J HOUSE 1/2F	03-5570-0303	03-5570-1323
ロードランナー・ジャパン株式会社 150-0041 渋谷区神南1-6-6 オザワ・ビル 5 F	03-3463-6907	03-5728-5888
株式会社アイヴィ 153-0051 目黒区上目黒3-10-3-313	企画制作担当 03-5721-8210	03-5721-8214
有限会社エル・ディー・アンド・ケイ 150-0042 渋谷区宇田川町36-19 名畑ビル 3 F	03-5489-7098	03-5489-0075

ボリグラム、フォグラム、ポリ・ル、キティ、マ・キュリ・ミュージック・エンタテインメント、ユニバーサル・レコードを含む
 バイオALDC から変更 ミュジック から変更
 旧パソナ・ミュージックエンタテインメントは、(株)エフ・エス・ミュージック(Tel 03-5379-3520)が継承

ふり　　かな
学校名

ふじ かな
氏 名

作相如

作品名

部門

(電報のみ)

(資料のみ)

作品紹介

(罰則のみ)

[illegible]

20x10

20x10

様式 4. 3 創作ドラマ部門あらすじ用紙

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares created by dashed black lines. The grid covers the entire area of the page, leaving no margins or additional markings. There are 20 columns and 12 rows of squares.

20x10

全 国 高 校 放 送 競 技 大 会

[illegible]

20 x 10

全 国 高 校 放 送 コ ン テ ス ト

様式 4 - 6 使用著作物一覧表

No	著作物名(作品名等)		
	分類	著作者名	所有者・レコード会社名等
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

著作権フリーなど、著作権処理のいない著作物のときは数字を○で囲んでください。
記入について： には、CD・音楽・美術品・TV番組等を記入、自作の場合には、に「本校生徒自作」等を記入、自演の場合には、に「本校生徒演奏」等を記入
著作権隣接権の許諾が必要な著作物については、様式4 - 7 <使用許諾書>のコピーを添付する

JASRAC 管理の著作物については、様式4 - 8 <利用明細書のコピー>を添付すること
JASRAC 管理外の著作物についても、<許諾を示すもの>を添付すること

制 作 ス タ ッ フ	キ ャ ス ト

「NHK杯全国高校放送コンテスト」[録音・録画]

〒
所在地：
学校名：
校長名：
担当教員名： 印
電話：
FAX：

4. 応募作品の権利が主催者に帰属する場合であっても、使用音源の権利は移転しないことを主催者との間で確認します。

年 月 日

< 使用条件 >

様式5 ラジオドキュメント部門 番組紹介コメント原稿用紙（提出用）

（準決勝受付時に提出）

ラジオドキュメント部門エントリー

1

学校名

1000

県

高等学校

タイトル

番組に対する思いを文章化してください。〔100字以内〕このコメントは準決勝時に会場で代表者が読むものです。

[illegible]